

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

討議年月日: 令和3年3月17日

公表: 令和3年3月29日

事業所名 あみぶらす2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	静かに集中する部屋、活動的に遊べる部屋を分けている。	活動内容によっては狭く感じることもあるが、待つ訓練も兼ねて順番に行うなどを継続して行い、うまくスペースを活用していく。
	2	職員の配置数は適切である	10	0	肢体不自由児などにはマンツーマン対応を行っている。	送迎などによって、職員が手薄になる時間帯もある。人員増を図る一方で、職員のスキルアップにより一度に多人数を見られるようにしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	3	スロープや手すりの設置など、取り組めることはバリアフリー化している。	玄関など大きな段差がある箇所がある。予算や契約上の問題から大きな改装は困難であるため、現状の設備で受け入れ可能な利用者に限定せざるを得ない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	毎日ショートミーティングを行い、その中で意見を募っている。	意見を募りやすくするため、利用者の様子について話し合っている。その結果、モニタリングに全員が参画している形になっている。PDCAまで全職員で話し合えるようにする。また、経営的なPDCAは毎月全施設の正社員が参画している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	2	特になし。	いただいた意見を参考にさせてもらっているが、コロナ禍により様々なことが頓挫してしまっている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	過去はブログに掲載していたが、いつでも閲覧できるようにホームページに公開するようにしている。	ホームページに掲載する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	4	特になし。	外部評価を行う予定はない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	資格やスキルアップ研修の案内、休暇取得、補助を行っている。	研修等の案内機会が少ないので、こまめに案内し、職員の資質向上意欲を高めていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	職員などにも広く意見を聞きながら計画を作成している。	アセスメントシートがあまり効果的でなかったため使用していない状態が続いている。シートの改訂も進んでいないため、アセスメントシートの内容の見直しを行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	2	既存のアセスメントシートがあまり効果的でなかったため、モニタリングに力を入れている。	同上。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	担当は決まっているが、担当外の職員からの意見も聞きながら行っている。	正社員が2名のため、完全なチーム制にしてしまうと手が回らなくなってしまう。極力多くの職員から意見を募ることでチーム立案を実現している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	利用者が飽きないように、毎回違うプログラムを行っている。	同じことを繰り返して行うことも重要なことであるため、アプローチは変えるものの目的は一定期間統一した目的で実施する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	0	休日や長期休暇には、長時間ならではの活動プログラムを用意している。	休日や長期休暇は個別支援プログラムの時間をもっと多めにとり、より細やかな支援を行っていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	特になし。	1日のスケジュールが個別活動と集団活動に分かれているため、個別支援計画もそれらを組み合わせた内容になることが大半であるが、今後は意識的に組み合わせを行っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	毎日ショートミーティングを行っている。	活発に意見が飛び交うケースが少ないため、多少ラフな雰囲気でも様々な意見がでるようなミーティングにしていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	2	毎日ショートミーティングを行っている。	当日の支援終了後の振り返りは困難であるため、翌日のショートミーティングで話し合いを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	1	日報を作成し、特別な変化がある場合には経過記録も作成している。	経過記録は変化に気づくことに有効であるため、作成頻度を増やしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	1	モニタリングは、ショートミーティングの時間を使って行っている。	モニタリングの際に外部の意見を聞く機会が少ないため、関係機関との連携を強化していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	2	4つの基本活動を網羅するように配慮している。	現状通り、ガイドラインの基本活動を網羅するように配慮していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	児童発達支援管理責任者が出席するようにしている。	人材育成の意味も含め、可能な限り他の職員の同席も行っていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	1	学校から直接スケジュール等をもらえるようにお願いをしている。	学校によって対応がまちまちである。個人情報保護等を理由に情報提供を行えない学校もあり、親御さんからの連絡頼りになることで調整ミスによるトラブルが発生するケースもある。行政に対して、学校と放課後等デイサービスとの連携が法律で求められていることを発信してもらえるように依頼していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9	1	契約時に主治医の連絡先を確認している。	医療的ケア児の契約は今のところない。今後契約があった場合には主治医との連携が図れるような関係づくりを行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	3	特になし。	特別な連携は行ってない。今後は関係機関との連携を強化していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	3	特になし。	同上。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	4	特になし。	同上。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	2	近隣公園では、障がいのない子ども遊びに誘って一緒に遊んでいる。	コロナ禍により、今は外部の子どもとの接触機会を減らしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	5	特になし。	時間的な余裕がなく参加できていない。今後は外部機関との連携を深めていく。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	10	0	送迎時に毎日の様子を伝えている。特に問題がある場合は、面談も行っている。	送迎時や電話では伝えきれない内容もあり、面談を定期的実施するようにしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	4	特になし。	各家庭の価値観、習慣などもあるため、踏み込んだ保護者支援ができていない。しかし、大事なことであるため機会を作っていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	契約時には運営規程、重要事項説明書の読み合わせを行っている。	従来通り、しっかり時間をかけて説明し、保護者様や利用者様に対し安心して通所していただけるようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	送迎時に保護者様からの要望を聞き、支援内容に活かしている。	対応に苦慮するケースもある。様々な相談に対応できるよう職員のスキルアップを図るため、研修機会を増やしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	2	会社全体でママ会を開催し、保護者同士の連携を図っている。	事業所としての保護者会の開催を一昨年前から検討しているが、コロナ禍により頓挫している。今後実現を目指していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	苦情対応は最優先事項と捉え、迅速に対応するよう心掛けている。	入社後1年未満の職員も多く、レアケースの業務についての処理方法が十分に浸透していない。ミーティング時などで繰り返し説明していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	毎月、予定表とイベント案内を手渡しで行っている。また、日々の様子をSNSで発信している。	引き続き、活動の様子や今後の予定を丁寧に発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	10	0	紙、データとも配慮を行っている。	紙での個人情報は鍵付きの書庫へ保管し、データでの個人情報は専用回線内の記録装置へ保存している。今後さらなるセキュリティ強化を図っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	表情や動作に特に意識し、時にはじっくり話し合いをしている。	発語の少ない子には絵カードの利用頻度を高める。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	5	ボランティア団体や警察署などの協力により、講演などを行っている。	コロナ禍により今年には実現できていない。また地域住民に対する協力も得られるように企画立案を行う。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	4	災害マニュアルのみ策定している。	防犯マニュアルや感染症マニュアルの作成にも着手していきたい。また災害マニュアルも職員の入れ替わりにより見直しが必要である。保護者様への周知も強化する必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	避難訓練と、防災施設の見学・体験、シェイクアウト活動を行っている。	内容が主に利用者に対する内容になっているため、職員向けの訓練も行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	1	毎日のショートミーティングで実施している。	現在は、ケーススタディ形式で行っており、事例がない日は稀に研修を行う程度となっているため、研修回数を増やしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	1	特になし。	利用者の症状に合わせて、虐待の定義に該当する対応をせざるを得ないケースを職員間で話し合い、支援計画書に記載をしている。引き続き実施していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	3	特になし。	医師からの指示書は受けておらず、アセスメントシートや保護者様からの情報を基に対応をしている。保護者様に医師の指示書の提供を求めていくようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	毎日のショートミーティングで議題に挙げている。	未報告、未作成を防ぐため、毎日のショートミーティングで前日までのヒヤリハットの確認を行っている。報告例が少ないので、具体的事例をあげ、報告数を上げていく。